



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

LFPI News Letter

Winter 2006 No.34

半導体業界の10年前を振り返って



今より10年前を振り返ってみると、1994年当時に遡ることになります。

この年は大きく政治が動いた年であり、わずか1年の間に細川、羽田と首相が交代し、村山内閣が誕生した年でもあ

ります。

世相的には、向井さんが日本人初の女性宇宙飛行士になったり、大江健三郎氏がノーベル賞を受賞したり明るいニュースもありましたが、松本サリン事件と云う暗い事件の起きた年でもあります。

この様な時代を背景に半導体業界は好調を続け、世界全体での生産額は1千万ドルの大台を突破しています。時の主役は、米国を中心としたコンピュータであり、家庭でのパソコン普及に突入した年でした。

この当時の半導体製造業界を振り返ってみますと、インテルを首位にTI、モトローラーと続き、韓国勢であるサムスン、現代、LGも好調を続け、特に今や世界トップを狙うサムスンは、当時世界第7位のメーカーに急成長していました。

一方の日本国内メーカーは内需拡大政策の失敗により、電子機器製品に対する購買意欲は低く、世界の半導体メーカーの平均伸び率は30%を超えていま

したが、日本のメーカーは14%に留まっていました。当社を振り返ってみますと1969年に設立し、超純水装置を始めたのが5年後の1974年であります。

海外へは1983年に韓国へ進出し、2年後の1985年に台湾、2000年には中国へ進出し、お客様はもちろんの事、ご協力いただいた皆様には大変感謝致しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

現在我々がやらなければならない事は、法令遵守はもちろんの事「過去、現在、未来」に対しバランス良く業務を遂行する事であります。

過去とは客先で稼働中の装置のメンテナンスであり、現在とは工事中の装置の品質管理、納期、そして営業活動であります。未来とは超純水装置の改善、開発及び新商品の開発であります。

新商品の開発は液体関係のリサイクルと云うテーマで現在進行中です。

今後とも皆様のご協力とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

野村マイクロ・サイエンス株式会社
代表取締役社長

第4回青年部会主催講座報告

技術立社を目指す人づくり・自分づくり



講座風景

今回の講座には、複数の LFPI の先輩から管理者・技術者としてのアイデンティティーを拝聴したく開催させていただきました。

まず LFPI 事務局長の堀田氏より、時代の変化として戦後からの人々の暮らし、円、GDP などの指数、そして主な出来事から日本経済の成長の過程を説明していただきました。

主な出来事として挙げられた、【東京オリンピック】、【オイルショック】、【プラザ合意】、【ソ連崩壊】、【WINDOWS95】

オイルショックの頃に生まれた私が体験しているのは、ソ連崩壊、WINDOWS95 の 2 点ですが、学生時代のため経済にどのくらい影響があったなど考える事もありませんでした。



堀田氏による講座

その時代に会社の成長と共に現役の技術者として成長され活躍されてきた方の実体験は、テレビや本から聞く話とは違い臨場感があって面白く拝聴させていただきました、またご自身も懐かしく思い返されているようでした。

日本経済が急成長する時代に会社と共に成長されてきたことは、経済が低迷している現在から比べるとうらやましく感じ、またモノが溢れている時代からみると、モノはなくともココロが豊かであった時代に対してもうらやましく思えました。

そして【先人から教わったこと】として 4 つのキーワードを頂きました。

【個性尊重】【品位】【責任感】【教養】

昔も今も変わらないもので、これから我々も後輩に伝えるべき内容であり、何一つ欠けても管理者にはなれない、しかし何一つ達成することのない、終わりのないことと感じました。

最後に、理想的な管理者には①問題意識を持つ人間(責任感旺盛な人間) ②他人の痛みのわかる人間(恕を知っ

た人間) ③情勢の変化に適応できる人間(世の流れのメカニズムと方向性を見極め対応できる人間)であることが必要であり、日常業務を通して自分の周囲に、恥を知り、慎みを知り、情けを知る人間として立派な社会人を育成する責務があると思うというメッセージを 21 世紀の管理者へ送っていただきました。

次に「現代の技術者・管理者のあゆみと現在」として、日本ミリポア株式会社の柚木氏、栗田工業株式会社の澤田氏、OB 会員の矢野氏、株式会社ニシヤマの真野氏から、これまで苦労されてきた軌跡を通して、多くのメッセージを頂くことができました。これはそれぞれ方法に違いはあっても、ご自身のポリシーや哲学を貫かれてきたということが共通であるとの印象を受けました。

受講して感じたことは昔も今も人のする仕事は変わらないということです。ただ、モノの豊かな時代に育った若い世代と、全国民が豊かさを目指していた世代とでは、思考が異なっていると思います。それに加えて過保護的な教育や個人主義がまかり通る時代に、自分がどうありたいか、どの方向に進んでいくかを自分自身で考え直さなければと思います。本講座にて教えていただいた事を深く心に刻んでこれからもよきリーダーになれるよう精進してゆきたいと考えます。

青年部会幹事よりひとこと

青年部会の発足からはや 1 年半が経過し、講座も大阪・名古屋の開催を終えて、再び東京に戻ってまいりました。参加者の顔ぶれは約半数が常連で、新しい方も入れ替わり来られております。懇親会も含め、社外の先輩方、同世代の方のふれあいを通して、講座タイトル以外のオプションがついてきます。まだ参加された事のない方々も、入りやすい環境作りに努めておりますので、ぜひ若手社員に参加させるようご協力いただけますようよろしくお願いいたします。 (株式会社トーケミ 細谷卓也)



懇親会での講師の面々

新春「団塊の世代」座談会 2007年を見据えて



座談会風景

2007年に団塊の世代の定年が始まるということで、「2007年危機」が言われています。これは幹事の大部分が団塊の世代であるLFPIの危機でもあります。しかし、「団塊の世代」という言葉を作った堺屋太一は、団塊の世代は、知恵持ち、金持ち、時間持ちであり、2007年からは「黄金の10年」が始まると言っています。そういう状況の中で、LFPIの団塊4名様にお集まり頂きました。まずは自己紹介からお願い致します。

朝枝 茂：昭和24年7月東京生まれです。上智大学理工学部機械工学科卒業後、航空機オタクだったので昭和飛行機に入社し、その後日本アプロで膜分離に携わり8年前にエニーエンジニアリングを創設しました。定年はありませんが、息子は音楽をやっており継がないので、若い人を育ててバトンタッチするか、大きくしてアメリカに売るか、ですね。学生時代、1ドル250円の時代に30万円でアメリカに行って6ヶ月いました。サンフランシスコ大学の移民のための語学学校で、7人家族の家にただで6ヶ月泊めてもらい、日本という後進国から来たということでカルチャーショックがありました。そんな影響があってこういうような変な人間になった次第です。

澤田繁樹：昭和23年7月京都生まれです。立命館大学理工学部化学科（生物化学系）卒業後、栗田工業に入社し、最初大阪工事に3年間、その後は横浜、厚木、栃木と研究所勤務です。装置関係の開発を15年やって、膜関係の開発に携わり現在に至ります。あと2年半、2008年9月で60定年になり、かみさんが許さないかもしれませんが、自分としてはボランティア的な仕事をしたいと思っています。

小波盛佳：昭和23年12月宮崎生まれです。中学校550人の卒業生のうち、進学100人、大学に行ったのは片手という田舎でした。横浜国大化学工学科修士卒で、粉体技術研究所を設立したばかりの日曹エンジニアリングに入社しました。研究所からプロジェクトを含むプラント設計に移って15年、その後コンピュータシステムや半導体の分野を歩き、現在は開発を中心にした部署にいます。サラリーマン時代にやりたいことはたいていやったように思います。定年後、家計が許せばボランティア的

なことをやりたいと思ってきたのですが、再雇用制度で心が動いています。専門や趣味的なもので、世の中の役に立つものを本などにして残したいですね。

卜部兼好：昭和23年7月浜松生まれです。武蔵野美術大学大学院造形研究科（彫刻専攻）卒業後、デザイン会社3年、ある企業のデザイン室に10年、その後富士フィルター工業に入社して17年です。その間に、LFPIの立ち上げ直後に広報委員として関わって参りました。富士フィルター工業で積み重ねてきたことをこれからもできるところまで継続してやっていきたい。本来なまけものですが、彫塑などの制作時間も持ちたいと思っています。

団塊のこども時代と子育て

—まずはこども時代のことからお話をお進め頂けますか。

澤田：中学校の場合、1クラス55名で12クラスありまして、教室が足りないのでバラック校舎でした。

朝枝：東京では高校の時13クラス。全国的に子供が多かったですね。

卜部：同級生の家庭は子沢山で21年生まれの子も多い。だから団塊は二人目が多いですね。でも常に学校全体の人数が多いから活気があったよね。運動会とかをやるにしても。



朝枝 茂氏

澤田：我々が活気ある人間じゃなくて、数があるだけという気はしますが。

小波：我々はこれだけ数がいる上に、よく言われた「一億総何か」という戦前からの流れで、同じベクトルの方向に動きやすかった。学園闘争で学生同士の争いも多く、その時期に同窓会などの昔からの連綿とした流れも切れてしまった。

澤田：大学闘争やっていて会社入ったら企業戦士になって、そういうのを若い人が見ていて、なんやということになって、結局変わらないではないかと虚無感にとらわれていった。

小波：元気のいい闘士や、よくものを考えていた人の多くはアウトローになりましたね。社会を改革しようという意欲のある人が抜けて、甘い社会になったように思います。

澤田：三浦 展「団塊世代を総括する」（牧野出版）にあります。戦前の気風を残して、しかも新しいこともやるという世代で、自分たちはしっかりやってきたが、子供たちに方向性を示せない。それで子供に甘くなって、現代のフリーターとかニートの子どもたちを作った世代だとあります。確かに、結婚するとき上がらなかったし、下もない。同世代で集まるしかないので友達夫婦になってしまい、子供たちを甘やかすことになった。当たってるなど。

新春「団塊の世代」座談会 2007年を見据えて

小波：戦前は古い時代の考え方そのままではなかった。家庭の中で親父は怒ってればいい、奥さんはそれをフォローするだけでよかった。

澤田：三浦さんは、団塊の世代は変な荷物を作ってきたのだから、定年後はやり直せと言っています。企業を興して若いやつを使って教えて仕込んで10年間は仕事をやれ。生産に貢献せよと。それもそーやなと思いました。



澤田繁樹氏

小波：多くの人が、流れが変わったのに対処しなかったとは言えますね。ただ、戦前は戸主制度さえ残っていて封建的だったのが、戦後、占領政策の農地解放で貧乏人が解放された。言われたことだけやっていた人間がほんと自由と権利を与えられたので、いっぺんにモラルを獲得するのは難しかったのではないかと。団塊の世代ということではなく、たまたま第2次大戦が終結した区切りの時期のところに我々があたったということではないですか。

卜部：団塊の世代は戦後の復興期に成長し、今に比べたら貧しかったわけで、せめて自分の子供には良い生活をさせてやりたいという気持ちがあったと思います。親の情が、豊かな物質が氾濫する時代の中で、与えてあげることの出来る自分の子供への甘やかしにつながったのかもしれない。我々の親は生きるためにもっと切実な思いで子育てをしたと思います。

澤田：昔は町や村の共同体ができていて、互いに叱咤激励していたわけですが、団塊の特徴として、地方から都会に出てきて、郊外に家を買って、車を買って、経済を引っ張って来たわけですが、郊外には人を育てるような共同体がなく、モラルができない。定年後はそういう共同体に関わるような仕事をしてみたい。

卜部：現在東京に住んでいる人の多くは日本全国から移動してきた人で、言わば雑種のなところがあり、地域に根ざした活動や近所付き合いが出来にくい。よその子供にも無関心で、ましてや叱らない。新興住宅地などはどんな人間が住んでいるのか見当がつかないし、余計な付き合いはしたくないというのが本音でしょうね。

小波：そんな中で団塊の世代がこれからボランティア的な世界の要になる。これはやらざるを得ないのではないかと。

澤田：団塊の世代は会社人間で子育ても自治会も嫁さんにまかせ、器用な人間ではない。

卜部：おそらく団塊の世代は、ずっと走り続けて来たせいもあって疲れていて、自治会や地元の集まりは、かみさん行ってくれよと…。何か疲弊してますね。

朝枝：32歳で化学工学（膜分離）の世界に入ってきて、ハンディキャップもあって追いつきたい追いつきたいと

いうことで、42歳の頃がピークで、仕事取ってきて設計自分で試運転して毎月100時間位残業でした。家族にはすまんと思いつつ、仕事優先。でも安い切符で息子を海外に連れだして、親父が英語でしゃべっているところを見せたりして、先ほども言ったように音楽家として少しは意識の高い息子ができたと思います。

澤田：子供を育てるといのは一種の賭ですね。30代くらいまでは心筋梗塞になるまで徹夜研究ばかりだったし、土曜日出て連続実験、水漏れして夜中、土曜、日曜に出かけていたり。

小波：プロセスエンジニアリングの仕事は、1年後が納期とすると、最初の1ヶ月は24時間のうち寝る時間以外すべて設計作業、それから少し楽な時期があり、試運転の3ヶ月も寝る時間以外仕事。かみさんも共同して、おとうちゃんは大変だし、すごいんだよ、と示したことで、上の娘はエンジニアになりたいと言っていたほどでした。子供に尊敬してもらうには心構えも大事ですよ。

団塊の会社人生

一次に、会社の団塊の世代の処遇についてお伺いします

澤田：リストラありません。総じて残っています。専門を生かしたいとか特殊事情でやめる人はいましたが、競争というのはなく、け落としてもない。落ちこぼれもない。団塊入社100名が会社をみんなで支えていると、みんなもそう思っています。団塊定年後を見据えて、現在技術伝承チームも作られています。教育効果があるかはわかりませんが。

小波：役職定年で、57以上は管理職でなくなります。それで士気が落ちる人も多そうですね。下がつかず、現場で一人でやれでしょ。ちょっとつらいですよ。60すぎに対しては、嘱託という形の制度が現在あるんですが、それを恐らく65まで引っ張ることになるでしょう。



小波盛佳氏

卜部：年齢の問題でポストや賃金が下がってくるといことは、つらいし、やる気が出なくなるのも分かりますね。当社は比較的、団塊の世代が少ないと思いますが、その少数が力を発揮していると思っています。近い将来、技術や経験、知識、実践的なノウハウの喪失につながり、経営に影響を与える事にならないよう考える必要があります。

朝枝：2020年への警鐘という雑誌特集がありました。高齢化、少子化によって政治経済に危機が訪れる。2020年には人口は1億を切り、65歳以上の働かない人口が全体の1/4になり、財政が行き詰まるというものです。

卜部：今でも財政が行き詰まっている訳で、15年後といわず危機的状況は増幅すると思われ。現在、若い

新春「団塊の世代」座談会 2007年を見据えて

人を採用しようと思っても少子化が進んでいてなかなか良い人材が確保出来ない。また、安易に抜けていく。それをカバーしなくてはならないのが今まで経験を積んできた団塊の世代。それで65まで雇用しなくてはという流れがあるわけでしょう。それは温情とかではなくて、やらないと産業が成り立たないわけです。これはやる気のある人にとっては非常に良いことです。クリエイティブな知的労働の核としてとにかく団塊が頑張るといことですかね。

小波：だから年金は65からで、うまく仕組みであるというか。さらに70とかまで引き上げられて、我々は死ぬまでもらえなかったりして。ところで、機械会社やエンジニアリング会社はオイルショック以降、10年くらい人を採っていません。その後ぼちぼち採り始めて、バブル崩壊以後どっと採っている。だから40歳から52歳くらいがいない。違う業界にいつてしまった。その年代に技術屋が抜けているような状況があって、我々がやめるのを制度的に遅らせてそのブランクを埋めなくてはならない。

澤田：入社後、確かにポスト持っているのは上で数年はずーっと一番下でした。毎年宴会係をやらされました。

LFPIの今後

— 幹事を団塊が占める LFPI の 2007 年後が心配です

ト部：幹事や各委員会の委員長はみんな団塊。そういう人たちがいつぱいにいなくなります。青年部会があるが、時間が足りない。

澤田：幹事のメンバーを考え直さなければいけません。幹事も65まで延ばしてやってもらうか。直ぐ辞めて次世代に譲るか。会社の団塊の下に人がいないのと同様、LFPIも青年部会は30代前半。45から50くらいの参加者が少ない。

— LFPI で中古機の会社を作るという話がありましたが、団塊の皆さんが適任だと思いますが。

ト部：商売の許認可をどう受けるのか、集積場はどこにするか、売った後のメンテはどうするかなど問題が多くて棚上げになっています。LFPIは利益を伴う活動はしないという事もあると思います。

朝枝：これには荷担していました。NPOでやる場合でも、販売が成立すると課税される。欧米をモデルにして、こうしたNPO組織への補助、税制優遇処置についての国会審議があったんですが、現在止まっています。

小波：それには、ボランティアということだけでなく、中古機売買を商売として割り切る人が必要でしょう。リスクは俺が全部引き受けるが、代わりに利益はきちんともらうというような資本力がある事業家加わらないと成功しにくいのではないのでしょうか。

澤田：やはり、訓練センターとして役割、または企画を

技術サポートする仕事がLFPIには向いているでしょう。

小波：ボランティアで、専門性を高めさせるだけでなく、感受性を豊かにするサポートをしたいですね。そのためには家にこもってやるというだけではなく狭くていいから、一緒に相談や作業をする場所がほしい。

朝枝：おじさんたちはこんな考え方をするんだぞと知ってもらいたいですね。

— 今の若い人はどうですか

ト部：個々の考え方の差が大きい。

小波：団塊は同じような考え方でまとまる。しかも幅が広い。

朝枝：同じ経験しているからね。

澤田：発想力が必要だが、今の会社のシステムは奇人変人を作らせないし、そうさせない。

ト部：今の世の中はめまぐるしく変化しているので、その時代に適応するためにも短期的に結果を出すことが優先されます。奇人変人もいるのですが、それが目立つようなシステムにならないというのが現状でしょう。



ト部兼好氏

澤田：そういう意味で異業種、会社の違う人と話せる場所としてLFPIは貴重です。

小波：会社の中でしか頑張らない人が圧倒的多数の中で、LFPIに集まるような人は会社の中ではエキセントリックなんですね。実はここに集まるような人たちが技術とか情報をもたらしてきて研究のテーマとかを拾ってきている。

ト部：会にいること自体が自分の考えと他人の考えをハイブリッド化していて、そういうことから新しい製品の発想が生まれるとか、そういう意味でこの会は非常にいい場を提供しております。現在、そうした形が第三者に見えないので、それを顕在化することがこれから大切なことです。

澤田：技術委員会でもその話が出ていて、参加者層が固まっているので新しい人にどんどん入ってもらう企画をしないといかんと考えてはいるんですがね。

朝枝：ところで、独立してからアメリカ、韓国の会社から助けてもらっているのですが、やっぱり同じ年代なんですよ。考え方の波長が合っているんだね。音楽の趣味もそうですが。

小波：第2次大戦は世界中がまきこまれ、戦後ほっとして育った同世代の人たちの文化が栄えてビートルズが世界で共通に流行った。その時代から後は世界中が同じということはないような気がしますね。

— 本日は長時間ありがとうございました。

(司会・構成・文責：広報委員 青木 裕)

新製品／主力製品紹介

このコーナーは名簿順に掲載しておりますが、新製品発表がタイムリーな時期にあたる会員企業には優先的掲載を検討致します。富士フィルター工業(株) 卜部宛ご連絡下さい。(E-mail:urabe@fujifilter.co.jp)

MDF1000 中型自動圧搾フィルタープレス

〈製品概要〉MDF710 小型自動圧搾フィルタープレスが各業界で好評を得ており、今回上位機種として、MDF1000 中型自動圧搾フィルタープレスを開発いたしました。

単純加圧式に比べ、ケーキ圧搾することによりサイクル当たりの時間が短縮され、処理量が多い場合、時間のかかるスラリーの場合には特に大きな威力を発揮します。金属表面処理・半導体関係の排水処理、化学・鉱工業の製造工程には最適な装置です。



〈特徴・仕様〉

- 0.7MPaのエア圧搾により、より低含水率のケーキが得られ、廃棄物処理費用の削減が可能になります。
- ケーキ剥離装置により、ケーキの残りによるトラブルを解消し、自動を実現しました。
- ろ布洗浄装置がオプションにて簡単に取付け出来ます。
- 小型のタッチパネル方式の制御盤により、運転操作が簡単に行なえます。
- 装置全体がコンパクトにまとめられ、狭い場所に設置出来ます。

株式会社マキノ

環境機械部

〒479-8623 愛知県常滑市大曾町3丁目1番地
TEL (0569) 36-0113 (営業代表) FAX (0569) 34-7639
URL: <http://www.makino-co.co.jp>

フジ・自動逆洗フィルターユニット

〈製品概要〉フジ・自動逆洗フィルターユニットは、通液、ろ過、プレパージ、逆洗など、一連の機能をPLCにてコントロール。用途に応じて各社オリジナルろ過洗浄システムをプログラミングし、今まで困難と言われた2度

逆洗なども実現しました。フィルターエレメントにはフジプレート(焼結金属メッシュ)、ウェッジワイヤーなどを使用することにより、より精度の高いろ過を可能にしました。



〈特徴・仕様〉

- 1ピースバルブを採用し、液漏れを解消。900#, 320℃までの対応実績を持ちます。
- バックウォッシュのタイプとして、ろ液を使用するインターナル・バックウォッシュ/独立したヘッダーより供給される逆洗液によるエクスターナル・バックウォッシュ/プレパージ付エクスターナル・バックウォッシュがあります。
- 流体の特性や用途に応じた機能を選定いただけます。
- 石油リファイナリー・プロセス(脱硫工程)における触媒除去全般、DIESEL FEED, AMIN, VACUUM GASOIL, DIESEL STREAM, HYDROCARBON, LEAN SOLVENTのラインで使用されております。

富士フィルター工業株式会社

〒103-8308 東京都中央区日本橋2-3-4
TEL (03) 3241-4201 FAX (03) 3246-1288
URL: <http://www.fujifilter.co.jp>

ペーパーレスレコーダ エコグラフ RSG30

〈製品概要〉近年測定データのトレンドを記録する方式はペーパー式記録計からペーパーレス方式へと移行しておりますが、ペーパーレス記録計はいまだに高価なものと考えられております。ペーパー式記録計の場合、消耗品となる記録紙及びペンの管理等の維持管理費は年間を通すと以外にかさむものです。エコグラフ RSG30は低価格を実現し、日本語表示を可能にした最初の海外製品です。



〈特徴・仕様〉

- ユニバーサル入力3点 又は 6点入力

- STNディスプレイ
- 通信機能、USB、RS232/485、イーサネット
- 記録メディア: CFカード
- WEBサーバー機能

電源電圧: AC 90 ~ 253V 50/60Hz
寸法: 144 x 144 x 171mm
質量: 700 g
材質: フロント部ABS樹脂
ディスプレイ: 4.7"式 液晶カラーディスプレイ
データ保存周期: 1秒から設定可能
内部メモリ: 約100万データ保存可能
外部メモリ: コンパクトフラッシュカード(CF)を使用
データ形式専用フォーマット、*.CSVから選択可能
リアルタイムクロック内蔵
リモート操作可能

エンドレスハウザー ジャパン株式会社

プロダクトマーケティング部

〒183-0036 東京都府中市日新町3-70-3
TEL (042) 314-1920 FAX (042) 314-1943
URL: <http://www.jp.endress.com>

**「廃フィルターの有効利用と処理・処分」WG
および「エコフィルター」WG報告**

月に数百万本以上も廃棄物として処理されている使用済み有機系フィルターエレメント（カートリッジフィルター）の適切な処理・処分に関する問題提起がユーザー及びメーカーから寄せられたため、本工業会の社会的責任として2004年10月からメーカー会員等10社による「廃フィルターの有効利用と処理・処分」WGを立ち上げ、使用済み有機系（プラスチック）フィルターエレメントの現状の処理・処分方法及び問題点について約1年にわたり廃棄物処理業者とも面談を行うなどして検討してきました。その結果の一部は既にLFPIのホームページで公開しています。

廃フィルターWGでは以下のような点が課題となりました。すなわち、

- (1) 使用済みフィルターの種類、付着物の多様性に対してリサイクルあるいはリユース技術とリサイクル設備の対応力あるいはリサイクル業者の情報が不明確である。
- (2) 非有害物付着・低汚染フィルターの一般廃棄物としての認定のための条件、すなわち付着物や材質を表記することにより、家庭用浄水器と同様に一般廃棄物として認めてもらうためにはどうすれば良いか。
- (3) 使用済みフィルターのユーザーとメーカーあるいは処理施設を結ぶ回収ルート確立、すなわち各地に分散している使用済みフィルターを廃塩プラのように収集拠点を設けることができないか、あるいは効率的な収集方法はあるか。

上記の議論の結果、いずれの課題も今後も検討を要する、すぐには実行可能なものではないとの結論に達した。そこで、廃フィルターの発生を減少させるためにはどうするか、という観点から、環境にやさしいフィルター、すなわちエコフィルターを検討するWGの設立となり、2005年10月からスタートした。エコフィルターWGでは現在以下の項目等について検討を行なっている。

- (1) フィルター素材を問わず、環境と経済性の両方を配慮したフィルターの定義・概念の明確化
- (2) 各種使用済みフィルターのリユース・再生・有効利用に関する現状調査
- (3) LFPIが認定するエコフィルター製品表示制度の検討

今後はカートリッジフィルター以外にもフィルターの範囲を広げていく予定ですので、関心のある方はご参加下さい。

(エコフィルターWG代表 松本幹治)

会 告

第5回青年部会主催講座のご案内

1. 講座名 & 講師

- 第1部：講演 「具体例からみた企業の社会的責任」
講師：五島 洋先生
- 第2部：会社紹介「安積濾紙株式会社」
- 第3部：交流会

2. 日時

- 2006年1月20日（金曜日）13：14集合
- 講 演：14：00～15：30
- 会社紹介：15：45～17：00
- 交 流 会：17：00～19：00

3. 場所

- 安積濾紙株式会社：
阪急京都線 上新庄駅
梅田寄り改札（南出口） 東へ徒歩12分
新大阪駅よりタクシーで約20分
住所：大阪市東淀川区小松4丁目2番15号
TEL：06-6327-5145（代） FAX：06-6328-0492

4. 参加費

- 8,000円（講座参加費、懇親会費を含む）

技術講座のご案内

恒例の技術講座を下記のとおり開催します。今回は、各種液体清澄化技術の融合によって開拓された技術を中心にした「液体清澄化の先端実用ハイブリッド技術」をテーマとして新しい技術動向について6件の講演を予定しています。詳細は2月初旬にご案内する予定です。多数のご参加を期待しています。

1. 総論
2. 樹脂と膜のハイブリッド化
3. 膜とクロマトのハイブリッド化
4. オゾンと膜のハイブリッド化
5. 生物と膜のハイブリッド化
6. 汚泥濃縮と脱水のハイブリッド化

日 時：2006年3月3日（金）

10：00～17：30（交流会17：30～20：00）

会 場：横浜プラザホテル（横浜駅東口徒歩3分）

参加費：会員 12,000円（会費：8,000円、交流会4,000円）

非会員14,000円（会費：10,000円、交流会4,000円）

編集/発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会
住所：〒194-0032 東京都町田市本町田2087-14
TEL (042) 720-4402 FAX (042) 710-9176
LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>